

事例研究論文とディスカッションを用いた授業実践

学校臨床心理専攻・信原孝司

1. 授業の概要（目的・到達目標）

臨床心理面接特論Ⅱは、前期の臨床心理面接特論Ⅰを踏まえ、特に事例研究（心理面接ケースの研究）の視点から心理面接への理解を深めることを目的としている。また、到達目標は心理臨床の基本的な知識と応答技術を習得し、実際の心理臨床場面に応用できるようになることである。

2. 導入

授業初回では、今後の授業予定を学生に周知徹底し、学生が今後の見通しを持って自学自習出来るようにする効果を期待している。今年度は、以下の授業内容で実施した。

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 事例理解について
- 第 3回 臨床心理事例 1 【不登校】
- 第 4回 授業者の補足 1 【不登校】
- 第 5回 臨床心理事例 2 【神経症】
- 第 6回 授業者の補足 2 【神経症】
- 第 7回 映画を通して臨床心理面接を考えるⅠ
- 第 8回 ディスカッション
- 第 9回 臨床心理事例 3 【パーソナリティ障害】
- 第 10回 授業者の補足 3 【パーソナリティ障害】
- 第 11回 臨床心理事例 4 【心的外傷】
- 第 12回 授業者の補足 4 【心的外傷】
- 第 13回 映画を通して臨床心理面接を考えるⅡ
- 第 14回 ディスカッション
- 第 15回 振り返り・レポート提出

3. 授業の方法と形態

1回目、2回目の授業は、授業実施者（以下、授業者とする）がオリエンテーションを兼ねて講義形式で行った。1回目は「生い立ちと転移関係を考える」と題した問い掛け等、前期授業Ⅰの復習をしながら、後期授業の予定に触れた。2回目は、「事例研究と心理臨床」のテーマで授業者が講義しながら、ディスカッションを行い、事例理解の大切さや意義等について理解を深めた。

臨床心理事例 1～4 は、学生達が不登校・神経症・パーソナリティ障害・心的外傷から自発的に

選んだ担当テーマに関する事例研究論文等に沿った発表レジュメを作成・発表し、履修者とディスカッションをした。

授業者からの補足 1～4 では、特に、臨床心理事例での発表で取り上げられなかった、あるいは希薄であった領域を中心に取り上げた（授業者が講義形式とディスカッション形式で授業を行った）。

その他、映画を通して臨床心理面接を考えるⅠ・Ⅱでは、映画『ベティー・ブルー』と『Another Woman』（邦題『私の中のもう一人の私』）を取り上げ、視聴とディスカッションを行った。

4. 授業を振り返って・アンケート結果

学生が提出したレポート中の授業評価を中心に、授業を以下に振り返った。

学生からのコメントでは、心理臨床実践の事例研究論文に数多く触れる機会を持って有意義であった、とのコメントが多かった。その一方で、担当グループでの発表時に時間が足りなかった、発表とディスカッションとの時間配分に課題残った等とのコメントもあった。授業者側の工夫としては、授業内で取り上げる内容の精査を行い、取り上げて欲しいキーワードを事前に提示することや、おおよその時間配分を事前に指示おくこと等が考えられる。また、ディスカッションのもう少し時間を割いて欲しいとの意見もあったので、来年度は全体構成を踏まえた工夫をしたい。

授業形態では、授業者からの講義、担当グループの発表と授業者からの補足講義をセットにし、心理臨床課題を考える映画の視聴とディスカッションという全体構成は支持が多かったので、微調整をしながら、この授業形態を継続したい。

授業内容はバラエティに富んだが、履修者の自学自習もあって、授業進行はスムーズであった。ただ、取り上げるテーマやグループの発表内容によっては、ディスカッションが活性化しなかった部分があった。今回は小グループでのディスカッションを導入することで、履修者の積極性が見られる部分もあったので、来年度は更なる工夫のあり方を検討したいと考えている。